

マタイ 6 : 19-34

「2019年、神を信頼し、大切にする」

6:19 自分の宝を地上にたくわえるのはやめなさい。そこでは虫とさびで、きず物になり、また盗人が穴をあけて盗みます。

6:20 自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫もさびもつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。

6:21 あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。

6:22 からだのあかりは目です。それで、もしあなたの目が健全なら、あなたの全身が明るいが、

6:23 もし、目が悪ければ、あなたの全身が暗いでしょう。それなら、もしあなたのうちの光が暗ければ、その暗さはどんなでしょう。

6:24 だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということとはできません。

6:25 だから、わたしはあなたがたに言います。自分のいのちのことで、何を食べようか、何を飲もうかと心配したり、また、からだのことで、何を着ようかと心配したりしてはいけません。いのちは食べ物よりたいせつなもの、からだは着物よりたいせつなものではありませんか。

6:26 空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養ってくださるのです。あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。

6:27 あなたがたのうちだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。

6:28 なぜ着物のことで心配するのですか。野のゆりがどうして育つのか、よくわきまなさい。働きもせず、紡ぎもしません。

6:29 しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。

6:30 きょうあっても、あすは炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくして下さらないわけがありません。信仰の薄い人たち。

6:31 そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。

6:32 こういうものはみな、異邦人が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。

6:33 だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。

6:34 だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。

## はじめに

先月のマタイの福音書の学びでは、イエスがユダヤ人律法学者やパリサイ人に語られたことを取り上げました。人に褒めてもらうために慈善活動を行うなら、神からの報いはないと、イエスは語られました。

断食も人知れずに行わなければならないことがわかりました。

イエスは、宗教指導者たちの祈り方も批判なさいました。

宗教指導者たちが人前で祈るのが、人の歓心を買うためなら、神はその祈りに報いてくださいません。

また、イエス・キリストの信徒である私たちの罪を神は赦してくださることも学びました。

しかし、私たちもまた、私たちに罪を犯す人々を赦す覚悟が必要です。

もし人を赦さないなら、神に私たちの罪を赦してもらうことは期待できません。

イエスは、似たテーマについて説教しておられましたが、ここで私たちの生き方に言及されます。

イエスは、私たちの生まれ持つ罪の性質について語られます。  
そして、違った生き方があることを示してくださいます。その違った生き方は、私たちがイエスの教えを受け入れ、神から新しい性質を受け取って初めて可能になります。  
もしあなたがクリスチャンなら、2019年のいつかの時点で、ふたつの性質の間で戦いが起こるでしょう。  
ふたつの性質とは、生まれ持った性質と、私たちのうちに住まわれる聖霊のご性質です。  
新しく与えられた性質に完全に明け渡して初めて、イエスがこの説教で語っておられるような生き方が可能になるのです。

## 1. あなたの宝は、どこにありますか。天ですか。地上ですか。(19-21節)

まず、イエスが何を指して地上の宝と天の宝とおっしゃったのか考えていきましょう。

### a) 地上の宝。

イエスはお金で買える物を指しておられたのだと思います。  
イエスが宝という単語が使われた理由は、宝は私たちがとても大切にしているものだからです。  
この課題を理解するカギは、「自分の宝を地上にたくわえるのはやめなさい。」という表現です。  
この言い回しは、地上の所有物を大切にし、頼りにしている状態を連想させます。  
つまり、お金で買えないものよりもお金で買えるもののほうを大切にしているということです。  
喜び、幸福、心の平安はお金では買えません。  
特定の商品を手に入れば幸せになれると思わせる広告はたくさんありますが、それは長続きしません。  
ビジネスで成功している企業は、常に新商品を世に送り出します。現実には、商品そのものではなく、新しい商品という概念が人を幸せな気分にするのだということを、知っているからです。  
お金で買った商品から得た幸福感は一時的なものです。  
イエスは、地上の宝は盗まれたり、虫が食ったり、金属ならいつかは錆びるとおっしゃいます。  
それは、一時的なものを頼りにしてはいけないということです。そういうものは一時的で、目的達成のための手段でしかないからです。  
この世で生きていくために物は必要ですが、それを宝にはしません。

### b) 天の宝。

ここでまず明らかなのは、天の宝は永遠であるということです。誰にも取られることはありません。そして、古びたり壊れたりもしません。天の宝がどういうものを理解するために、マタイ 19：16-22 を読みましょう。

#### マタイ 19：16-22

19:16 すると、ひとりの人がイエスのもとに来て言った。「先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをしたらよいのでしょうか。」

19:17 イエスは彼に言われた。「なぜ、良いことについて、わたしに尋ねるのですか。良い方は、ひとりだけです。もし、いのちに入りたいと思うなら、戒めを守りなさい。」

19:18 彼は「どの戒めですか」と言った。そこで、イエスは言われた。「殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証をしてはならない。」

19:19 父と母を敬え。あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」

19:20 この青年はイエスに言った。「そのようなことはみな、守っております。何がまだ欠けているのでしょうか。」

19:21 イエスは彼に言われた。「もし、あなたが完全になりたいなら、帰って、あなたの持ち物を売り払って貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むこととなります。そのうえで、わたしについて来なさい。」

19:22 ところが、青年はこのことばを聞くと、悲しんで去って行った。この人は多くの財産を持っていたからである。

この話に登場する裕福な青年は、悲しんで去っていきました。彼は裕福で、お金が幸せをもたらしてくれると信じていたからです。

イエスは彼に、天に宝を積みたいなら、持ち物をすべて売り払って貧しい人に与え、イエスについてきなさい、と言われました。

つまり、天の宝とは私たちが受けるものではなく、必要な人に私たちが何を与えるかということです。

21 節でイエスは、私たちの宝によって私たちの心がわかるとおっしゃいます。

私たちの心が神と地上でなされる神の働きとにあるなら、金銭や物を蓄えることに執着しないはずです。

お金が手に入っても、自分のために何を買おうということよりも、必要な人にどう分け与えようかということに興味がかかります。

## 2. 私たちの目は健全でしょうか。(22-23 節)

イエスは、目にたとえて、ご自身の考えを伝えておられます。

目が健全だと、よく見えます。目が悪いと、ぼやけて見えます。

現代では、ほとんどの大人がメガネなどを使います。視力矯正が必要だからです。

20 年ほど前、良い眼科医は目の検査をただで体の他の部分の健康状態までわかるということを知りました。

私のロンドンの自宅の近くに、町で一番の眼科病院の名医が住んでいました。

その眼科医は、眼科病院で診察していない時には、自宅でも開業していて、少数の患者を受け入れていました。

その眼科医はアリス先生といって、私はその患者のひとりでした。

ある時、私は目の検査のために予約を取っていました。

しかし、アリス医師はまず私の健康状態について尋ねました。

そこで、多発性硬化症の可能性があると医者に言われたことがあると言いました。

これに対しアリス医師はきっぱりと、「それはありません。もしそうなら、目に現れますから」と言いました。

そして、目の診察をすることで、多くの病気を早期に発見できると説明してくれました。このお医者さんの言うとおりです。

イエスがここで使われたたとえは、現在にも通用します。

2,000 年経った今、目が私たちの健康状態を知らせてくれることがわかっています。

実は私は多発性硬化症ではなく、ストレス疲労で休息が必要だったのです。

私がかかっていた内科医は、眼科医の意見を聞き、3 か月仕事を休んで静養すれば治るでしょうと私に言いました。

そのとおりでした。当時、私は多忙なうえに、教会や奉仕における深刻な問題を抱えていました。

私の体には休息が必要だったのです。それで、3 か月休みを取ると、ちゃんと治りました。

イエスがここで言うておられるのは、目は体に光を通す窓であり、物事を思考にもたらす器官だということです。

私たちの知覚や思考がはっきりしていれば、体も人生も健全でいられます。

一方、目が情欲や食欲など罪を取り入れるなら、それによって体も生き方も滅びます。

ですから当然、私たちの思考パターンが悪魔の戦場なのです。

悪魔が私たちの思いを動かすことができれば、私たちの行動を動かせるようになるのも時間の問題です。

イエスは、目で見えるものをどのように消化するか細心の注意を払う必要があると言われます。私たちの生きる現代は、ソーシャルメディアなどネット社会です。

不適切な内容がたくさんフェイスブックなどのメディアに投稿されます。

こういう理由で、私はもうフェイスブックを使わないことにしました。

多くのパソコンやサイトでは、不適切なコンテンツが表示されるのをブロックするよう設定できます。私はユーチューブのアカウントにもブロック設定をしています。それで、無害なものもブロックされることもあります。不適切なコンテンツから自分を守るためにブロック機能を使う価値はあります。

また、有害サイトが検索結果に挙がってこないようにできる、クリスチャン向けのブロックアプリをダウンロードすることもできます。

ピリピ 4 : 8-9 は、人生の良いものにのみ心と思いを留めるようにと語ります。

#### ピリピ 4 : 8-9

4:8 最後に、兄弟たち。すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。

4:9 あなたがたが私から学び、受け、聞き、また見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神があなたがたとともにいてくださいます。

### 3. 神とお金との両方に仕えようとしていませんか。(24 節)

「神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。」という部分ですが、英語の新欽定訳では、「富」の部分が「マモン」となっています。この「マモン」とはカルデヤ人のお金の神です。

この単語は、物質主義を指す言葉として使われています。

物質主義は現代社会に大きな影響を与えています。

この箇所は、私たちがお金と神のどちらかに支配されることを示します。お金が私たちの主人になって私たちに支配すると、私たちの選択決断やライフスタイルに影響を与えます。神が私たちに支配するなら、私たちは神のご計画と目的のためにお金を用います。

この世でお金なしに生きることはなかなかできません。

神は、貧困生活を送りなさいとおっしゃっているではありません。

そうではなく、お金は私たちの人生を支配するほどの強い影響力があると教えておられるのです。

神に人生の主人であり支配者になっていただくなら、神が私たちのお金の使い方を動かしてください。

ウィリアム・コルゲートの話は有名ですが、聞いたことがない人もいるかもしれませんから、改めてお話する価値があるでしょう。

コルゲート家は、約 150 年前に英国を出て、米国に移住しました。

ウィリアムの父ロバート・コルゲートは農夫でした。

ウィリアムは石鹸作りに興味を持ちましたが、最初の起業は失敗に終わりました。その後、ある友人に出会い、その友人が神にお金をささげることについて証してくれました。

そのとき友人が読んだのが、創世記 28 : 20-21 です。

#### 創世記 28 : 20-21

28:20 それからヤコブは誓願を立てて言った。「神が私とともにおられ、私が行くこの旅路を守り、食べるパンと着る着物を賜り、

28:21 無事に父の家に帰らせてくださり、こうして【主】が私の神となられるなら、

友人はウィリアムに言いました。「イエス・キリストに心をささげなさい。そして、神に属すべきすべてのものを神にささげなさい。正直な商売をして石鹸を作れば、神は繁盛させてくださるだろう。」

ウィリアムは、収入の一分をささげる什一献金を神にささげる決心をしました。

その後、ウィリアムは神に2割ささげるようになり、さらに4割ささげるようになりました。神はウィリアムを大きく成功させてくださったので、彼は神の働きに9割をささげ、自分は収入の1割で暮らすようになりました。

ウィリアムは1837年に亡くなりましたが、その記憶と商品は今も残っています。

私自身、コルゲートの知覚過敏用歯磨きは必需品です。

英国に帰ったときには毎年、11か月分を日本に持ち帰ります。私の知覚過敏に効く歯磨き粉を日本で見つけられないからです。

什一献金をして神にお金をゆだねるからといって、億万長者になれるとは約束しませんが、自分のお金を神のみこころにゆだねるなら、神がそれを有益に用いてくださることは間違いありません。

#### 4. 将来のことを心配していませんか。(25-34節)

今日は2019年最初の日曜日です。丸一年分の未来が私たちの前に広がっています。

私たちの心にダメージを与えるもののひとつに、「心配」があります。

イエスは、何事も心配しないようにと私たちに語られます。

そして、ご自身がお造りになった自然を例に挙げ、心配しないようにと励ましてくださいます。

では、「心配」とはなんでしょう。

何か、または誰かについて過剰に案じることです。

イエスは、心配は非生産的だとおっしゃいます。

心配は価値のあるものを何も生み出しません。つまり、完全に非生産的だということです。

そして、心配無用だとおっしゃいます。

イエスは、空を飛ぶ鳥や野に咲くゆりを指し、神が被造物を養われるのと同じように、ご自身のお造りになった人間も養ってくださると教えてくださいます。

イエスも地上におられた間、すべてが備えられると神を信頼しなくてはなりませんでした。

ですから、ご自身が未経験のことを教えておられたものではありません。

イエスは、心配には価値がないとおっしゃいます。

将来を心配する労力が無駄だとおっしゃいます。

そして33節で、心配しなくてよい一番の理由を教えてください。

私たちは、未来についての責任を神に負っていただくべきです。私たちはただ、神の国とその義とを第一に求めればよいのです。

#### マタイ 6 : 33

6:33 だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。

ここで大切なことを見逃してはいけません。

イエスは、ご自身の子どもたちの面倒を見ると約束してくださっています。

今、私たちは神の子どもになれます。そうすれば、心配する必要はなくなります。

神の義を求めるにはどうすればよいのでしょうか。

次の3つの言葉を理解しなくてはなりません。「認識する。悔い改める。受け入れる。」です。

私たちは、人間を造られた創造主なる神と引き離された状態でこの世に生まれてきたことを認識する必要があります。

私たちは死んで、罪の罰を受けることがすでに決まっています。

これは命の危機です。

#### ローマ 2 : 5-8

2:5 ところが、あなたは、かたくなさと悔い改めない心のゆえに、御怒りの日、すなわち、神の正しいさばきの現れる日の御怒りを自分のために積み上げているのです。

2:6 神は、ひとりひとりに、その人の行いに従って報いをお与えになります。

2:7 忍耐をもって善を行い、栄光と誉れと不滅のものを求める者には、永遠のいのちを与え、  
2:8 党派心を持ち、真理に従わないで不義に従う者には、怒りと憤りを下されるのです。

神は、「悔い改める」ことを私たちに要求されます。これは、聖書の神に関する自分の考え方を  
変えることです。聖書が神について教えることを信じるということです。  
そして、私たちの罪が創造主なる聖なる神を怒らせたという事実を恥じて悔いるということ  
です。

### **使徒 17 : 24-31**

17:24 この世界とそこにあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから、手で  
こしらえた宮などにはお住みになりません。

17:25 また、何かに不自由なことでもあるかのように、人の手によって仕えられる必要はあり  
ません。神は、すべての人に、いのちと息と万物とをお与えになった方だからです。

17:26 神は、ひとりの人からすべての国の人々を造り出して、地の全面に住ませ、それぞれ  
に決められた時代と、その住まいの境界とをお定めになりました。

17:27 これは、神を求めさせるためであって、もし探り求めることでもあるなら、神を見いだ  
すこともあるのです。確かに、神は、私たちひとりひとりから遠く離れてはおられません。

17:28 私たちは、神の中に生き、動き、また存在しているのです。あなたがたのある詩人たち  
も、『私たちもまたその子孫である』と言ったとおりです。

17:29 そのように私たちは神の子孫ですから、神を、人間の技術や工夫で造った金や銀や石な  
どの像と同じものと考えてはいけません。

17:30 神は、そのような無知の時代を見過ごしておられましたが、今は、どこでもすべての  
人に悔い改めを命じておられます。

17:31 なぜなら、神は、お立てになったひとりの人により義をもってこの世界をさばくため、  
日を決めておられるからです。そして、その方を死者の中からよみがえらせることによって、  
このことの確証をすべての人にお与えになったのです。」

最後に、イエス・キリストをとおして神の愛と赦しを「受け入れる」必要があります。

### **ヨハネ 3 : 16**

3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じ  
る者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

### **ヨハネ 1 : 12**

1:12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもと  
される特権をお与えになった。

多くの方はここで葛藤します。自分で救いを勝ち取りたいからです。神がすでに罪の罰を償  
ってください、救いは無償だ、というのが受け入れられないのです。

### **エペソ 2 : 8**

2:8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出た  
ことではなく、神からの賜物です。

今年最初の皆さんへの課題は、イエス・キリストに人生をおささげし、神の栄光のために生  
きることです。

アーメン。